

# DICOMO2014論文フォーマット

情報 太郎<sup>1</sup> 処理 花子<sup>†1</sup>

概要：このパンフレットは、DICOMO2014 に投稿する論文の最終版を、日本語 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X を用いて作成し提出するためのガイドである。このパンフレットでは、論文作成のためのスタイルファイルについて解説している。また、このパンフレット自体も論文と同じ方法で作成されているので、必要に応じてスタイルファイルとともに配布するソース・ファイルを参照されたい。また、本スタイルファイルの元になっているのは、情報処理学会論文誌用のスタイルファイル（<http://www.ipsj.or.jp/journal/submit/style.html> からアクセス可能）なので、L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X コマンドの詳細などについては、それらを参照されたい。なお、論文フォーマットについては、上記の原稿執筆案内に記載されたフォーマットではなく、本フォーマットをご利用いただきたい。

## DICOMO2014 Paper Format

JOHO TARO<sup>1</sup> SHORI HANAKO<sup>†1</sup>

### 1. 論文フォーマットについて

ページ数の制限は設けない。フルペーパーに相当する論文を基幹論文誌推薦の対象とする。また、和文原稿において英語のアブストラクトは記載しないこととし、英語のタイトルと英語の著者名については、その記載は著者自身の判断にまかせることとした。

その他の本論文の体裁については「情報処理学会論文誌 (IPSJ Journal) 原稿執筆案内」(<http://www.ipsj.or.jp/journal/submit/ronbun-j-prms.html>) に準拠する [1]。なお、DICOMO 2014 向け原稿に関する特記事項として、以下に留意いただきたい。

- 使用するファイルは、  
dicomopapers.cls  
である。これは基本的に、ipsj.cls を、ヘッダーとフッターを出力しないようカスタマイズし (但し dicomocommon.cls は、情処で配布されている ipsj.cls と等価)、情報処理学会の許諾の下で配布するものである。

- documentclass の設定は、  
`\documentclass[Japanese,noauthor]{dicomopapers}`  
とすること。
  - Japanese オプション: 和文原稿の場合に指定すること
  - English オプション: 英文原稿の場合に指定すること
  - noauthor オプション: 和文原稿の場合に限り、英文のタイトルと著者名を記載したくない場合に指定すること
- biography セクションは、記述しないこと。

著者も含め、予稿集作成に関わる全ての人々の労力を軽減するためにも、原稿を作成する前に 上記執筆案内を良く読んで規定を守っていただきたい。

なお、これらスタイルファイルについて、情報処理学会に問い合わせることはしないこと。また DICOMO2014 運営委員会としても、基本的にサポートはおこなわないので、悪しからずご了承ください。

### 参考文献

- [1] 情報処理学会論文誌 (IPSJ Journal) 原稿執筆案内, 入手先 (<http://www.ipsj.or.jp/journal/submit/ronbun-j-prms.html>) (2013.03.28).

<sup>1</sup> 情報処理学会  
IPSJ, Chiyoda, Tokyo 101-0062, Japan

<sup>†1</sup> 現在、マルチメディア、分散、協調とモバイルシンポジウム運営委員会  
Presently with DICOMO2014